

2023年度 第一回技術委員会 (合同委員会)

2023年4月14日(金)

Web開催



主な内容

1. 2023年度技術委員会メンバー
委員長、副委員長に関して
2. 今期の取り組みについて
3. 今期の活動スケジュール
4. 申請状況について
5. WG活動報告
6. その他

技術委員会メンバー

登録会社64社106+α名

株式会社オクト
光明理化学工業株式会社
株式会社JCVケンウッド(議事録担当)
新コスモス電機株式会社
株式会社タニタ
中央自動車工業株式会社
東海電子株式会社
株式会社東洋マーク製作所
ドレーゲルジャパン株式会社
NISSHAエフアイエス株式会社
株式会社ネモト・センサエンジニアリング
株式会社パーマンコーポレーション
株式会社パイ・アール
フィガロ技研株式会社
前野技研工業株式会社
株式会社ヤナコ計測
アイグッツ株式会社(次回:議事録担当)
株式会社アサヒ企画
あすまる株式会社
エスケイジャパン株式会社
MIクリエーションズ株式会社

NCY株式会社
株式会社エフェクト
株式会社オウルテック
株式会社オクト
株式会社オムニ
株式会社キングジム
株式会社グロックス
株式会社コムテック
株式会社コンテック
SANKEIプランニング株式会社
株式会社サンクラウド
鈴与シンワート株式会社
SEIKOIST株式会社
センスエアエービー
(旭化成エレクトロニクス株式会社)
大自工業株式会社
株式会社天時情報システム
株式会社東京企画
株式会社東計電算
株式会社ドウシシャ
トライポッドワークス株式会社
株式会社ドリテック

日本鋭明技術株式会社
株式会社藤田電機製作所
株式会社ユアーショップ
株式会社ユビテック
株式会社ライノプロダクツ
株式会社レッツ・コーポレーション
新東工業株式会社
株式会社SREE
小林薬品株式会社
有限会社ドリームチーム
株式会社イズムシステムインテグレータ
TML株式会社
NHPソリューション株式会社
株式会社セイワ
株式会社ミツバサンコーワ
株式会社SGST
株式会社ファーストシステム
株式会社カスタム
アイリスオーヤマ株式会社
株式会社高昇
エレコム株式会社
Dahua Technology Japan合同会社

(2023/4/14 現在)

技術委員会メンバー

2023年度 技術委員会

委員長 : 株式会社 ネモト・センサエンジニアリング 三浦

副委員長 : フィガロ技研株式会社 新規事業推進室 室長 河口智博様

今期の取り組みについて

- 外部検定の運用及び新方式の申請対応
- JB10規格英文化対応
- JB20規格運用に向けた対応
- アルコールガスのトレーサビリティ調査
(ドライーウェットガスの相関関係等)

2020年度～2023年度の活動計画(案)

項目	活動内容	2020年度				2021年度				2022年度				2023年度			
		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
①自主検定	自主検定合格品 有効期限	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
②外部検定	JB10000検定運用	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	JB10001維持審査	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
③規格WG活動	JB20001規格策定	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	ISO/TC272対応	■	■	■	■	■	■	■	■	⊠	⊠	⊠	⊠	⊠	⊠	⊠	⊠
	CERIとの運用協議	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	CERIの設備整備	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	プレテスト	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	JB20001検定運用	■	■	■	■	■	■	■	■	⊠	⊠	⊠	⊠	⊠	⊠	⊠	⊠
	JB20001検定運用	■	■	■	■	■	■	■	■	⊠	⊠	⊠	⊠	⊠	⊠	⊠	⊠
④ガスWG活動	Dry-WetGas関連評価 /評価機関調査等	■	■	■	■	■	■	■	■	⊠	⊠	⊠	⊠	■	■	■	■
	Wet試料液検討評価 (ReCCS)	■	■	■	■	■	■	■	■	⊠	⊠	⊠	⊠	■	■	■	■
⑤義歯安定剤WG活動	義歯安定剤連絡会 対応	■	■	■	■	■	■	■	■	⊠	⊠	⊠	⊠	⊠	⊠	⊠	⊠
⑥その他技術的対応	J-BACのHP等からの 技術的相談対応	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■

■ 作業完了 ■ 作業予定
⊠ 作業追加 ⊠ 未実施

2023年度活動スケジュール

2023年度技術委員会開催予定

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
技術委員会	●4/14 第八回定期総会 (Web開催) 第一回			●7月 第二回			●10月 第三回				●2月 第四回	

●規格WG
随時実施

●ガスWG
随時実施

2022年度外部検定運用

2022年7月1日より新方式での検定運用開始

変更内容: 検定審査会での書類審査を外部機関(CERI様)へ移行

10月以降の申請状況

10月～12月: 新規 7

維持 1

新①～③班

特班 : 同一機種申請 3

1月以降の申請状況

2月: 新規 2件

3月: 新規 2件

新④、⑤班

今後とも検定審査会(班)の
対応宜しくお願いいたします。

検定審査会グループ

登録会社47社

12グループを予定 申請会社以外に割り振る

①新コスモス電機株式会社(リーダー)

①アイグッツ株式会社

①株式会社アサヒ企画

①あすまる株式会社

②ドレーゲルジャパン株式会社(リーダー)

②MIクリエーションズ株式会社

②エスケイジャパン株式会社

②NCY株式会社

③株式会社パイ・アール(リーダー)

③株式会社エフェクト

③株式会社オウルテック

③株式会社オムニ

④株式会社タニタ(リーダー)

④株式会社キングジム

④株式会社グロックス

④株式会社コムテック

⑤フィガロ技研株式会社(リーダー)

⑤株式会社コンテック

⑤SANKEIプランニング株式会社

⑤株式会社サンクラウド

⑥中央自動車工業株式会社(リーダー)

⑥鈴与シンワート株式会社

⑥SEIKOIST株式会社

⑥センスエアエービー

(旭化成エレクトロニクス株式会社)

検定審査会グループ

登録会社44社

12グループを予定 申請会社以外に割り振る

⑦前野技研工業株式会社(リーダー)

⑦大自工業株式会社

⑦株式会社天時情報システム

⑦株式会社東京企画

⑧株式会社パーマンコーポレーション(リーダー)

⑧株式会社東計電算

⑧株式会社ドウシシャ

⑨東海電子株式会社(リーダー)

⑨トライポッドワークス株式会社

⑨株式会社ドリテック

⑩株式会社東洋マーク製作所(リーダー)

⑩日本鋭明技術株式会社

⑩株式会社藤田電機製作所

⑪株式会社JVCケンウッド(リーダー)

⑪株式会社ユアーショップ

⑪株式会社ユビテック

⑫株式会社オクト(リーダー)

⑫株式会社ライノプロダクツ

⑫株式会社レッツ・コーポレーション

**OEM申請、同一機種申請、仕様変更届対応
特別検定審査班**

○光明理化学工業株式会社

○NISSHAエフアイエス株式会社

○株式会社ネモト・センサエンジニアリング

○株式会社ヤナコ計測

申請方法の確認・変更について

審査時の注意事項

- ・最終出荷場所について

最終出荷場所が複数箇所ある場合は様式2. の1. 当該機器の製造の【最終試験(出荷)場所】に全て記載し、その関連性を明記する。

この明記事項により【最終試験(出荷)場所】が複数ありとなった場合はすべての場所がサイト監査の対象となる。

- ・取扱説明書について

新規申請: 外部機関の書類審査時に指摘を受け修正を行った場合、現地(サイト)監査までに改版する。

申請方法の確認・変更について

審査時の注意事項

- ・各申請、監査、試験の不合格後に関して
現在、上記不合格になった後、外部機関様へ長期間連絡がない企業様が数社おられます。
長期連絡がない状態が続きますと、協会側の台帳と外部機関様の進捗管理が合致しないなどのケースが生じ始めております。
今後の対応として、外部機関様との協議になりますが、
「連絡が2ヶ月ない場合は、中断通知とともに一旦審査等を中断処理し、再開する際には技術委員長まで再開の申請を行う」
と外部機関様と協議、3月に実施。
→ 2社中断(申請取り下げ)連絡あり

申請方法の確認・変更について

審査費用改定に関して、

2023年3月に外部機関であるCERI様より審査・監査・試験費用の改定の連絡がありました。

理由等に正当性が見られましたので、本件を受け入れることが幹事会にて決定いたしました。

【改定内容】 改定時期 **2024年1月** 申請分より

・料金変更前

1年目 初回審査 27.5万円
2年目 維持審査(現地)11万円
3年目 維持審査(現地)11万円
4年目 維持審査(現地)11万円
5年目 維持審査(現地)11万円
5年合計 71.5万円

・料金変更後

1年目 初回審査 32.5万円
2年目 維持審査(現地)11.5万円
3年目 維持審査(現地)11.5万円
4年目 維持審査(現地)11.5万円
5年目 維持審査(現地)11.5万円
5年合計 78.5万円

規格WGについて

○ JB10整備、英文化およびJB20, JIS等対応

参加表明メンバー

旭化成エレクトロニクス: 吉田様、清山様

光明: 畑様(リーダー)

タニタ: 金成様

東海電子: 杉本様、高木様、植松様

NISSHAエフアイエス: 常深様、柳谷様

ネモト・センサエンジニアリング: 三浦

フィガロ技研: 河口様

ヤナコ計測: 上西様

※ 随時ご興味のある企業様の参加をお待ちしております。

規格WGについて

2022年度第四回技術委員会にて
今後について

- JB10001
 - 電池対応等の規格修正(様式2の修正?)
 - NDIR仕様に対する規格対応(試験ガス等)

- JB20001
 - 2023年度運用開始への対応
(CERI様との最終運用調整、最終見積入手等)
 - JB20規格の見直し(第7回規格WG実施予定)
(温度試験、流量試験等)

2023年度4月開始は難しい → 2023年度夏を目標へ

- ISO化
 - 他機関の調査検討

規格WGについて

JB00, JB10について

- ・ 電池対応等の規格修正(様式2の修正?)

- 修正案 -

5)	購入後の修理、メンテナンス、校正について説明しているか。
6)	電源電圧変動が性能に影響を与える場合きちんと説明しているか。 電池残量について機器での表示や取説に説明されているか。
7)	呼気の吹きかけ方法について説明しているか。

文書 No:B202304-2

J-BACのHP掲載時より運用開始
(2023年5月頃予定)

規格WGについて

JB20について

- 2023年度運用開始に向けて
 - CERI様との最終運用調整、最終見積入手
 - JB20のトライアル実施に伴う規格の見直し
(温度試験、流量試験等)
及び電気妨害試験の対応について
- 3月8日 三浦委員長より「外部検定に関するアンケート調査」を依頼
→ 3月14日 〆切: 25社より回答
(うち2社は圧縮ファイルの社内DXシステムで開封できない回答)
- 3月27日 第7回規格WG実施

規格WGについて

第7回規格WG(続き)

1) 温度の影響ガス測定の条件(アンケート結果)

※温度試験としては、測定器をどちらで測定した方が良いと思いますか。

恒温槽内:17社、恒温槽外:6社

槽内：温度の急変は好ましくない

意見：温度補正精度が低下する可能性

槽外：チューブ内結露によるアルコール濃度低下が懸念

意見：残気ガスの影響を受ける可能性

規格WGについて

第7回規格WG(続き)

1) 温度の影響ガス測定の場合

※その場合の測定回数は(アンケート結果)

5回:13社、5回以外:10社

5回: 統計上の信頼性を担保で5回以上が望ましい。

意見: 槽内で繰り返すことによる残気を気にするより、排気等を考慮した試験方法を検討した方が良い。

5回以外: 槽外での繰り返しにより機器温度がなじみにくい。

意見: EN規格も1回である。

出してなじませるインターバル又は槽内残気懸念より3回が良い。

10回に増やし、平均値(または中央値)が基準内に「入る/入らない」や割合評価を行う。

規格WGについて

第7回規格WG(続き)

1) 温度の影響ガス測定の内容(規格WGでの協議の結果)

- 試験は恒温槽内で実施する。
- 試験回数は1回とする。
 - 但し、CERI様に恒温槽内のガスが一定であることを確認頂く。
 - 1回だけの判断で問題がないか。リトライを許容するか。
 - 規格書は1回とするが、CERI様にはリトライ〇回まで。
ただし、次回試験までに〇〇分再放置等を再度協議

規格WGについて

第7回規格WG(続き)

2)呼気中の体積及び時間の影響の流量条件など(アンケート結果)

※最低流量試験について、JB20に合わせて機器設計(日本人対応)を変更すべきか、EN規格に合わせてJB20規格を変更すべきか。

現行通り:16社、EN規格に合わせる:10社

現行通り: 肺活量が少ない人でも計測可能なことが

意見: 前提と思うので日本人の身体に合わせるべき。

ENにおいて、最低流量は $0.15\text{L}/\text{秒} = 9\text{L}/\text{分}$ で

あり、 $9.6\text{L}/\text{分}$ が低過ぎるということはない。

EN規格に合わせる: 日本独自の仕様の制定はできるだけ避けた方がいい。

意見: 体積と時間の変動影響を確認すれば十分であり、吐出体積 0.8L は試験条件から除外

規格WGについて

第7回規格WG(続き)

2)呼気中の体積及び時間の影響の流量条件など (規格WGで協議の結果)

- 最低体積は、国交省アルコールインターロック規格が0.7L
→ 但し同規格はEN規格を参照としている
- 最低流量6L/minの規格文書からの削除
(最低体積(0.7L以上)及び時間(3s以上)はそのまま)
- 流量試験の0.8Lについては、各社の最低流量を提示し、その流量にて0.8Lとなるような時間を定めて試験する。

→ 現在トライアル4社に上記流量値を確認中。入手後CERI様
トライアル試験再開予定

規格WGについて

第7回規格WG(続き)

3) 電気妨害の試験の対応(アンケート結果)

※本試験遂行に関してご意見をお願いいたします。

・次の①～③のケースの選択制とする

① 全てCERI様に依頼(CERI様から試験を外部に委託OK)

② 第三者機関で試験(妨害試験&精度確認)した
エビデンスの提出でOKとする

③ 第三者機関で妨害試験をし、その前後の精度確認のみ
CERI様で実施精度

・試験の公平性、信憑性を保つ上では外部機関での測定
が望ましい。

規格WGについて

第7回規格WG(続き)

3) 電気妨害の試験の対応(規格WGでの協議の結果)

- 静電試験は、機械を購入し、CERI様でやって頂く手順書化
- イミュニティー試験、高価なため、いくつかの無線機試験(トラック無線やトランシーバー、スマホ等)に切り替える。

以前の理由 ・夏、冬は湿度が範囲外となる。

- ・試験により発生するプラズマが同室にある他の装置に影響を与える可能性がある。
- ・装置を理解できている職員がいない。

- 上記実施が無理な場合、規格より本内容(電氣的試験)を削除し、次のグレード時とする。(その間、電氣的試験が実施できる他の試験場を探す。又は社団法人化して、協議会内で行う等。)

→ CERI様には再度試験可能か確認を行う。

試験運用方法(特に②, ③)の検討や試験自体についても協議

規格WGについて

今後について

- JB10001
 - 電池対応等の規格修正(様式2のHP掲載)
 - NDIR仕様に対する規格対応(試験ガス等)

- JB20001
 - 2023年度夏運用開始への対応
(CERI様との最終運用調整、最終見積入手等)
 - JB20規格の見直し協議
(規格WG実施、CERI様への確認対応)

- ISO化
 - 他機関の調査検討

アルコールガスのトレーサビリティ調査

○ ドライボンベガスとシミュレーター(ウェットガス)の相関関係調査

参加メンバー

光明理化学: 畑様

タニタ: 金成様

東海電子: 杉本様、高木様

NISSHAエフアイエス: 常深様、柳谷様

フィガロ技研: 河口様

株式会社 ネモト・センサエンジニアリング: 三浦

ヤナコ計測: 上西様(リーダー → 今期から暫定で三浦へ変更)

旭化成エレクトロニクス: 吉田様、清山様

具体的な活動は今年度から実施予定

【課題事項】

- ・ウェットガスとドライガスの相関の確認方法の検討
- ・試験実施に向け試験を行っていただける企業の募集
- ・試験対応の為ドライガスの提供方法の検討

その他

- 問い合わせ事項の対応は随時実施中
業務委員会 Web/IT班と連携
HPに「よくある問合せ」を開設準備中
- 認定品の調査検討
業務委員会 調査班と連携
認定品が正しく販売されているか調査対象を検討
- 質疑応答

今後の取り組みについて

1. 外部検定の運用の監視
2. JB10002 JB20001の対応
3. アルコールガスのトレーサビリティ調査の推進
4. 業務委員会様と連携
5. 2024年度以降の活動計画立案
6. その他HP等からの技術的相談対応

まとめ

会員企業様のご尽力にて、認定機器が増えてきておりそのため、認定機器の社会への認知度、信用度が非常に上がってきております。それに伴い、認定品での誤動作や不具合が出ることで、信用が落ちてしまうことも考えられます。今後も皆様のご協力宜しくお願いいたします。